

WatchGuard Press Release

報道関係各位

2009年7月6日
ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社

ウォッチガード、新 OS「Fireware XTM」を発表

次世代 UTM である XTM (eXtensible Threat Management) を機能強化で実現

Fireware XTM を搭載した新セキュリティ・アプライアンス「XTM1050」を同時発表

ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：本富顕弘、以下ウォッチガード）は、本日、新 OS「WatchGuard Fireware XTM」（以下、Fireware XTM）およびセキュリティ・アプライアンス「WatchGuard XTM1050」（以下、XTM1050）を発表しました。Fireware XTM は、ウォッチガードの現行 UTM アプライアンスである Firebox X e-Series のセキュリティ機能を強化し、企業のセキュリティを高めるほか、ネットワークおよび管理機能を拡張し、ウォッチガード Firebox の導入・運用をより簡単・安全に行うことが可能となります。

XTM1050 は、デュアル・クアッドコア・プロセッサと Fireware XTM を搭載したハイエンドのセキュリティ・アプライアンスとして、10GB のファイアウォール・スループットを実現。高いパフォーマンスと信頼性で、データセンターなどエンタープライズ環境のセキュリティを高めることができます。

Fireware XTM の主な新機能特長

（1）セキュリティ機能の強化

HTTPS インспекション

オンライン取引など高度なセキュリティが必要とされる通信に利用される HTTPS 接続は暗号化されているため、ネットワーク管理者が内容を把握し、脅威が含まれているか確認することが簡単ではありません。そのため、HTTPS 通信がセキュリティホールとなり、「HTTPS Cookie ハイジャック」などの脅威によって、ネットワークの安全が守られていないケースが増えています。Fireware XTM は、ウォッチガードの HTTPS プロキシ技術を活用し、HTTPS のデータ通信を検査し、HTTPS 通信でのセキュリティ脅威からネットワークを保護することができます。

VoIP セキュリティ

VoIP の IT 市場は、年間で 20 パーセント以上成長しているマーケットですが、その成長に伴って、企業ネットワークへのセキュリティホールになりつつあり、VoIP ネットワークを標的にした DoS 攻撃、ディレクトリ・ハーベスト・アタック、「vishing」（ネット電話フィッシング）などが増加しています。Fireware XTM は、SIP および H.323 プロトコルでアプリケーションレベルのセキュリティを提供し、企業の VoIP システムを「隠す」ことによって、ネットワーク攻撃から保護することができます。

IM および P2P アプリケーションをブロック

企業ネットワークでの、ボットネット攻撃が増加傾向にあります。ボットネット攻撃は、インスタントメッセージなどのプロトコルを利用することが多い場合、システム管理者は、インスタントメッセージの利用を全面的に停止するか、またはボットネット攻撃によるリソースと管理の損失リスクを高めてしまうか、という苦しい選択で悩んでいます。Fireware XTM は、アプリケーションレベルのインспекションとポートおよびプロトコル識別を行い、アプリケーション・トラフィックの有効性と安全性を確認することが可能です。また、HTTPS インспекションを IM アプリケーション・ブロックと併せて活用することによって、暗号化されたボットネットでのネットワーク攻撃を遮断することができます。

(2) ネットワーク機能の強化

企業ネットワークでのノンストップおよびハイパフォーマンス・スループットのニーズが高まっていますが、Fireware XTM は企業が求めているハイアベイラビリティの要望に応えるために、アプライアンス・クラスタリング機能を提供。アクティブ・アクティブ構成によるロードバランス、シームレスなフェイルオーバー機能、フルセッション同期、そしてビジネスの成長に伴うネットワークの拡張性などに対応しています。

また、トランスペアレント・モード、キャッシュプロキシサーバ対応の HTTP リダイレクト、VPN トンネル経由でのマルチキャスト対応、支店 VPN 経由での NAT サポート、外部インタフェースへの複数の VLAN 割り当て、などのネットワーク機能サポートによって、ネットワーク管理者のニーズに最大限に対応することができます。

さらに、IPSEC モバイル VPN に対応することによって、モバイルユーザが移動中に複数のアクセスポイントを変更しても、VPN トンネルが継続され、高セキュリティの接続を維持することが可能になります。

(3) 管理機能の強化

Fireware XTM では、特に管理面を強化し、企業のセキュリティ管理を安全かつ簡単に行うことが可能となります。管理方法として、従来の WatchGuard System Manager (WSM) 管理コンソールに加え、CLI (コマンド・ライン・インタフェース)、およびウェブ GUI によるアプライアンス管理を可能にしました。CLI 管理では、管理者がスクリプト・ツールを利用して、作業の自動化を行い、作業時間を短縮し、エラーを削減することが可能となります。

また、WSM で RBAC (ロールベースアクセス管理) 機能を新しく追加し、個々のファイアウォールおよび UTM 管理者のニーズに応じたアクセス権限の管理を行うことが可能となります。その他、Fireware XTM ではソフトウェアアップデートのスケジュール化、ポリシー設定、ライセンス更新などの機能を強化し、複数機器に対する中央からの一元管理機能を強化したほか、レポート機能の拡張などを行い、ネットワークの安全と安心をより簡単に確認することが可能となっています。

XTM1050 の特長

XTM 1050 は、高いパフォーマンスと高い信頼性を提供するセキュリティ・アプライアンスです。ウォッチガードの従来の高セキュリティ UTM 機能に加え、Fireware XTM による高いセキュリティ、ネットワーク、そして管理機能を提供。さらに、高スペックのハードウェアによって、データセンターなどの大規模エンタープライズ環境に必要な高いパフォーマンスと高い信頼性を実現します。

高パフォーマンス機能

- ・ デュアル・クアドコア・プロセッサと Fireware XTM によって高いパフォーマンスとセキュリティを実現
- ・ 10GB のファイアウォール・スループット
- ・ 2GB の IPSEC モバイル VPN スループットを実現
- ・ ギガビット・イーサポートを 12 ポート搭載し、光ファイバーポートへのアップグレードも可能 (4 ポート)
- ・ 管理専用ポートを搭載
- ・ ラインスピードのコンテンツ・インスペクションを実現

高信頼性機能

- ・ ホットスワップ可能の電源回路を二系統確保
- ・ ホットスワップ可能のファンを三基搭載
- ・ アクティブ・パッシブ構成およびアクティブ・アクティブ構成のクラスタリング機能が可能
- ・ 簡単な設定と運営が可能
- ・ ワンボックスとしてのマネジメントが可能

尚、Fireware XTM および XTM1050 は、今期（7～9月）に出荷予定です。

◆Fireware XTM ウェブ GUI 画面（日本語版）イメージ

http://www.watchguard.co.jp/images/XTM_Webui_screenshot.bmp

◆XTM1050 製品イメージ

http://www.watchguard.com/images/products/xtm1050_ft_lg.jpg

今回の Fireware XTM、XTM1050 発表についてのコメント

Fireware XTM、XTM1050 発表について、ウォッチガード代表取締役社長である本富顕弘は、

「中堅・中小企業におけるセキュリティ対策の需要に伴い、ウォッチガードのビジネスは急拡大しています。特に日本市場に対しては製品の日本語化はもちろん、機能・仕様の日本化を推進し、この度リリースの Fireware XTM には日本市場でニーズのある様々な仕様を実現しています。

例えば、これまで UTM 製品は導入、運用、サポートし易いことが特長でしたが、これらに加えトランスペアレントモードの採用により多くの販売代理店が販売し易くなります。

今後もウォッチガードは、『セキュリティの見える化』を提唱し、中堅・中小企業へネットワークセキュリティの『安心』を提供していきます。」とコメントしています。

WatchGuard Technologies 社について

WatchGuard Technologies 社は、1996 年から、ネットワーク・セキュリティ・アプライアンスにおけるテクノロジー・リーダーとして、信頼性が高く管理しやすいセキュリティ・ソリューションを全世界の企業に提供しています。WatchGuard Technologies の UTM ソリューションである WatchGuard® Firebox® X は、強力で信頼性の高いマルチレイヤーのセキュリティと、導入・運用、サポートのし易さ、最高の費用対効果を提供します。すべての WatchGuard 製品は、革新的なサポート、メンテナンス、教育プログラムである WatchGuard® LiveSecurity®によってバックアップされています。ウォッチガードは非公開企業で、本社は米国ワシントン州シアトル。その他、北米、ヨーロッパ、アジアパシフィック、ラテン・アメリカに支社があります。

詳細はウェブサイト <http://www.watchguard.co.jp> をご覧下さい。

本件に関する報道関係の方のお問い合わせ先

ウォッチガード・テクノロジー・ジャパン株式会社 マーケティング担当 山之内真彦

TEL : 03-5275-5261、FAX : 03-5275-5262、電子メール : jpnsales@watchguard.com

WatchGuard、LiveSecurity、Firebox は、米国ウォッチガード・テクノロジー社の米国およびそのほかの国における登録商標あるいは商標です。本プレスリリースで使われているそのほかすべての登録商標および商標は、各所有者に権利があります。